

会議録

1 開催概要

名 称 令和元年度 第1回 新潟市立豊栄図書館協議会
日 時 令和元年7月2日（火）午後2時～4時
会 場 新潟市立豊栄図書館 集会室
出席者
委員 白神会長、本間副会長、小野委員、村中委員、伊藤委員、有田委員、
坂井委員
(欠席 高橋委員、藤沢委員)
事務局 池田館長、青野主任、小松原主査、渡辺図書館司書
傍聴者 なし

2 次第

- (1) 開会
- (2) 館長あいさつ
- (3) 新任協議会委員委嘱
- (4) 議事
 - ①正副会長互選
 - ②報告事項
 - ア 平成30年度北区図書館事業報告
 - イ 平成30年度豊栄図書館学校図書館支援センター事業報告
 - ウ 平成30年度北区図書館利用統計
 - エ 「図書館へのたより」や図書館への意見
 - オ 令和元年度北区図書館事業計画
 - カ 令和元年度豊栄図書館学校図書館支援センター事業計画
 - キ 令和元年度北区図書館の予算
 - ク 図書館ビジョンの評価
 - ケ 第二次新潟市図書館ビジョンについて
 - コ 第三次新潟市子ども読書活動推進計画について
- (5) 閉会

令和元年度 第1回 新潟市立豊栄図書館協議会

日時 令和元年7月2日（火）午後2時から
会場 新潟市立豊栄図書館 集会室

開 会

（司 会）

これより、令和元年度第1回豊栄図書館協議会を開催する。

館長あいさつ

（館 長）

本年度で豊栄図書館長2年目。

今回、新しく委嘱された委員もいるため、北区の図書館の概要について説明したい。私どもは豊栄図書館、松浜図書館、濁川地区図書室の管理運営を行っている。豊栄図書館は、世界的な建築家安藤忠雄氏の設計。完成から18年たった今でも、多くの見学者が訪れている。平成31年3月には、入館者数が400万人達成セレモニーを行った。松浜図書館は北地区公民館に併設され、濁川地区図書室は、濁川連絡所・公民館に併設されている。

豊栄図書館の窓口業務は、業務委託を行っており、松浜図書館、濁川地区図書室は直営となっている。

豊栄図書館には、市内で4か所ある、学校図書館支援センターが設置されており、北区・江南区の36の小・中学校の学校図書館運営全般のサポートを行っている。このような取り組みは全国的にも先進的で、この度実績が認められ、第49回の学校図書館賞を受賞した。

図書館の予算に関しては、今年度も厳しい状況。市役所全体では財政基盤強化に向けた集中改革プランを策定しており、図書館運営についても改革が求められている。図書館としては、伸ばすべきサービスと、見直すべきサービスをしっかり見極め、「改革を行うチャンスが来た」という気構えで対応していきたいと考えている。

もう一点、今年の10月頃から北区役所の新庁舎建設工事が始まり、新庁舎での業務開始は令和3年以降となる予定。建設場所は、豊栄地区公民館の裏手、豊栄図書館と150m程度の距離。現在、約400mの距離のため、区役所に訪れた人にとって、豊栄図書館の利用のしやすさは相当向上する。豊栄図書館としても、このことを大きなチャンスととらえており、区役所との連携を充実させ、利用者の増加を図ってきたいと考えている。

本日は、主に昨年度の取り組みの成果と、今年度の取り組みの予定を説明する。委員より忌憚のない意見を聞きながら、多くの市民から親しみを持って利用してもらえる図書館を目指して行きたいと考えている。

委嘱状交付

（各委員に委嘱状交付）

委員自己紹介

(白神委員)

豊栄図書館応援団の会長をしている。

(村中委員)

濁川コミュニティ協議会事務局長、濁川まちづくりセンターに週3日勤めている。

(有田委員)

よみきかせボランティアグループ「こんぺいとう」で活動している。

(坂井委員)

公募委員。前市長が「暑いときは公共施設へ」と言っていた。本離れは進んでいるが、大勢の人が利用できる図書館という役割が大きくなると思う。

(伊藤委員)

白神委員と同じく豊栄図書館応援団の会員。小学校への読み聞かせもしている。

(本間委員)

地域ボランティア「北宝隊」代表。博物館と一緒に活動している博物館の館内ガイドを最近始めた。色んなことで地域文化にかかわっていきたいと思っている。産業振興課と一緒にバスガイドのツアーを行ったり、窓口を広げている。

(小野委員)

早通中学校の校長をしている。委員は2年目。

事務局自己紹介

(事務局・小松原主査)

豊栄図書館2年目。本日、進行を担当。

(事務局・青野主任)

豊栄図書館2年目。豊栄図書館学校図書館センターの主任。

(事務局・渡邊図書館司書)

本年度、豊栄図書館に異動。

議事

会長及び副会長互選

(白神委員を会長、本間委員を副会長に選出)

報告事項

平成30年度北区図書館事業報告(資料2)

(事務局)

最初に申し上げるが、松浜図書館は空調設備改修工事のため、平成30年11月5日から平成31年3月31日まで休館した。このため、定例事業を中心に、前年度よりも数字が減少した。

最初に、1児童対象事業の①おはなしのじかんの項の説明を行う。

豊栄図書館では、おはなしのじかんとして、3つの会を開催した。ここでは、対象と時間、担当ボランティアの団体名を挙げている。

幼児と保護者とわらべうたで遊ぶ「わらべうたのじかん」、「おはなしのじかん」は対象年齢を分け、0～2歳児と保護者向けの会と、3歳以上・幼児向けの会を開催している。

松浜図書館でも同様に、0～2歳児と保護者の会と、幼児・児童の会を開催している。

平成30年度は、土曜日開催の会について、開催回数と参加者数が増加した。

次に、②おはなしのじかん（ボランティア）の項の説明を行う。

全体的に増加傾向となっている。松浜図書館は、平成30年度に参加者0人の回が減少したため、前年度並の開催回数となっている。

次に、③その他の事業の項の説明を行う。

ブックスタートは、北区では豊栄健康センターと北地域保健福祉センターの2会場で実施している。なお、空調設備改修工事に伴い、北地区コミュニティセンターに会場変更した回もあった。平成30年度から、健診回数の見直しに伴い、実施回数が減少しているが、受診者数は前年度並となっている。

2会場合わせて443名の1歳児に絵本を手渡すことができた。これにはのべ63名のブックスタートボランティアから協力をいただいた。

ブックスタートは1歳誕生歯科健診時に実施しているが、これは赤ちゃんにとっては初めての歯科健診で、保護者も緊張している部分もある。ボランティアが、明るく笑顔で対応することで、保護者も、ブックスタート会場で、赤ちゃんと絵本をいっしょに楽しみ、ボランティアとおしゃべりを交わすことで、ほっとひと息ついて笑顔で帰っている。

「この本だいすき！」は、市内全図書館事業として行った。来館者に、おすすめの本のタイトルを紹介してもらった内容となっている。

豊栄図書館・松浜図書館合わせて61名が参加した。昨年度と比較して減少しているのは、しおり手作りコーナーの実施などが原因と考えている。また、うちどく読書ノートを配布した。前年度より実施回数を増やした。本の感想を書けるものと、ぬり絵の2種類で、2館合わせて合計697冊配布した。

豊栄図書館では、春・夏・冬のおはなし会をボランティアと共催で開催した。「春のおはなしリレー」では、豊栄図書館の活動ボランティアだけでなく、松浜図書館のボランティア団体も参加している。

松浜図書館は、参加者にくじを引いてもらい、あまった本を借りてもらう事業を行った。

次に、④講師派遣・体験学習・視察等の項の説明を行う。

中学校の職場体験と、小学校の施設見学を受け入れた。

小学生の施設見学では、年間を通じて多くの児童が来館している。図書館バックヤードの書庫を見学して可動式書架を動かしたり、図書館の建物の工夫を知ったり、思い思いに選んだ本を読んだり、図書館を知ることによって地域の図書館に愛着を感じ、強い印象が残るようだ。

次に、⑤ボランティア紹介の項の説明を行う。

豊栄図書館では、北区・江南区の小中学校から依頼を受け、おはなし会を実施するボランティアを紹介している。

平成30年度は4校から依頼があった。北区だけでなく江南区からの依頼も来ている。

続いて、2一般対象事業①各種事業の項の説明を行う。

北区共通事業として、図書館ホームページで公開している、一般向けの読書ノートを簡易製本したものを、2館合計383冊配布した。昨年度よりも配布回数を増やしている。

豊栄図書館事業の「おはなしの勉強会」は、図書館で開催したストーリーテリング講座の受講者が、勉強会を継続しているもの。おはなし、ストーリーテリングというのは、絵本の読み聞かせと違い、日本や世界の昔話・創作の物語などをすっかり自分の中に覚えてしまって、昔、年寄りが炉辺で昔ばなしを語ったように、本を使わずにお話を語って聞かせるというものである。

「おはなしの勉強会」では、子ども向けのおはなし会を年2回、大人のためのおはなし会を年2回担当・開催している。また、前出の、小中学校へのボランティア紹介でも、この「おはなしの勉強会」メンバーが出向いている。

ボランティア講座として、「ブックスタートボランティア養成講座」と、「北区読み聞かせボランティア入門講座」を行った。

「わくわく読書会」は豊栄図書館応援団主催で、年4回読書会を行った。

「わくわく体験夏まつり」は豊栄図書館応援団主催で、毎年開催している。図書館の施設全体を使ってのお祭りで、縁日コーナー、工作コーナー、本のクイズラリー、絵本の読み聞かせや古本市などたくさんの参加型イベントを行った。図書館の裏側を案内するバックヤードツアーも行った。平成30年度は、新潟医療福祉大学の学生4名にも協力し、イベントの補助などを行った。当日は猛暑日だったためか、参加者が前年度に比べ減少している。

「石塚さんの昔話を楽しむ会」はボランティアグループの「おはなしマドレーヌ」が主催し、江南区の昔語りを行っている石塚さんを招いておはなし会を開催した。平日開催だが、毎回好評な会となっている。

平成30年度初の試みとして、朗読会・歴史講座・野菜作り講座と行った。

朗読会は、読み手に職員も含め、文学作品を朗読する会となっている。

歴史講座は、市文化財センター学芸員を講師に招き、遺跡をテーマに行った。文化財センター・北区郷土博物館の協力も得て、本格的な展示も行った。

野菜作り講座は、出版社(農文協)職員を講師に招き、北区で盛んな野菜の栽培をテーマに行った。

また、前年度に引き続き、「わくわく体験夏まつり」の古本市以外に、保存期限の切れた雑誌のリサイクルを行い、850冊近い配布を行った。

3月には、来館者400万人達成の記念セレモニーと関連事業を行った。

松浜図書館では、北地区公民館の文化祭に合わせ、読み聞かせボランティアと協力して「小さな朗読会」を開催した。

また、平成31年3月末に、プレオープンイベントとして、保存期限の切れた雑誌のリサイクルを行った。

②講師派遣、体験学習、視察等、③視察、施設見学、よみきかせ等の項については、資料のとおり。

続いて、3 啓発事業（広報）の項の説明を行う。

テーマ図書展示では、テーマに沿って図書の展示を行い、利用者が興味を持つように工夫して行っている。

特に、北区出身力士の豊山関の応援展示は、場所ごとに積極的に行っている。

最後に、4 図書館ボランティア活動の項の説明を行う。

読み聞かせ活動、ブックスタートの他にも、豊栄図書館では書架整理、松浜図書館では本の補修をするボランティアが活動している。

（白神会長）

小学生の施設見学は何年生が対象か。

（事務局）

全学年が対象。学校から依頼があった学年を受け入れている。

平成30年度豊栄図書館学校図書館支援センター事業報告（資料3）

（事務局）

中央・豊栄・白根・西川の4つの学校図書館支援センター共通で作成した資料をもとに報告する。最初に、1 訪問・相談・資料提供（団体貸出・搬送）の項の説明を行う。

豊栄図書館では北区・江南区の小中学校36校を担当している。そのうち新任の学校司書は中途採用を含め7人。

学校図書館訪問は、1年間で81回行った。新任司書が他の支援センターより多かったこともあり、4支援センターの中で最も多い回数となっている。新任司書へは訪問の中で、実務マニュアルの読み合わせや学校図書館法についての意見交換を行い、業務への理解を深める機会とした。そのほかの学校へは、主に除籍に向けた資料選定を支援した。

業務相談では、新任司書に対し、購入図書のフィルムコーティングの仕方を説明したり、学習資料の購入に向けた資料の選び方について助言を行った。そのほか、学校図書館の活用推進に向けた方策や小中学校での連携による取組について相談を受けた。総数は326件で、前年度より37件の増加。レファレンス相談は147件で、こちらも前年度に比べ22件の増加。教科書単元に関連するものの他、総合的な学習の一環で地域のために何ができるかを考える材料として、関連する資料を提供した。そのほか、新聞記事検索の要望に対応した。

学校への団体貸出及び搬送では、市全体では双方とも前年度より減少している。理由の1つとして、貸出・返却の際に、可能な範囲で来館を依頼したことがあげられる。これは、市立図書館側の予算の削減及び搬送委託事業者の搬送費の値上がりへの対応によるもの。しかしながら、学校側の負担が大きくなるよう、必要に応じて適切に搬送を利用するよう継続して呼びかけている。

次に、2 研修の項の説明を行う。

新任学校司書研修については4つの支援センター合同で年6回、学校や教育委員会内の関係課と連携しながら実施している。支援センター毎に行う、学校司書実務研修は2回の内1

回目を7月2日に行った。学校司書にとって大切な業務の1つである、子どもと本を結ぶ取組をテーマとした。「おためし読書」という活動の演習と各学校での読書活動についての情報交換をした。

また、2回目を11月14日に中央図書館と合同で実施した。小学校では来年度から、中学校では令和3年度から移行する新学習指導要領を取り上げた。学校司書は教員ではないが、教育活動に携わる職員として現在の指導要領からの変更点を学び、学校図書館として何ができるかを考えた。いずれの研修も参加した学校司書からは高い評価を得られ、研修後の業務に役立てているとの声が届いている。

そのほか、「教員と司書との連携充実」講座は総合教育センターが行っているもので、講師の選定や研修内容の検討など企画段階から当日の運営まで協力している。

次に、3連携の項の説明を行う。

学校図書館活用推進校事業は学校支援課によるもの。平成27年度から今年度までの5年間で全ての小中学校が1年間の指定を受け、学校図書館の活用推進に取り組んでいる。北区では昨年度、葛塚小・木崎小・豊栄南小・木崎中・岡方中が指定を受けた。2月の報告会では、校内での教員と司書との連携体制が改善されたり、授業で資料を活用する機会が増えたりしたとの報告があった。

支援センターとしても情報提供や団体貸出での資料提供のほか、中学校からの依頼により、生徒が作成したPOPを豊栄図書館内に展示するなど、協力を行った。

最後に、4運営・発信等の項の説明を行う。

運営面では、各種会議により情報共有や連携を重視した取組ができるよう努めている。発行・発信は資料の通り。

実践発表及び講師派遣では、昨年度は本市の学校図書館支援について発表する機会を得て、他の自治体に比べ新潟市の学校図書館は恵まれた環境にあることを再確認した。

平成30年度北区図書館利用統計（資料4）

（館長）

資料の表の上段に、平成30年度、29年度、28年度と比較できるように並べて記載している。

平成29年度との比較を中心にご説明を行う。

「蔵書冊数」は、5,200冊ほど減少している。これは、豊栄図書館や松浜図書館において、情報が古いものや複本が多く存在する図書を選定し、除籍したことが主な要因。

「登録者数」は、12,435人と前年度比919人の減。これは、有効期限の4年を過ぎた利用者が、再登録の手続きを行っていないことが要因ではないかと考えている。

「貸出冊数」合計は、285,385冊と前年度比、42,866冊の減、右から3列目

の「貸出人数」は81,703人と同じく11,219人の減。また、「リクエストを含む予約件数」は46,636件と、同じく4,292件の減となっている。これは、昨年度、松浜図書館が空調設備改修工事のため11月から3月までの5か月間、休館したことが主な要因であると考えている。

「入館者数」は、松浜図書館は休館の影響で相当減っている。豊栄図書館でも、3,613人減少した。想像の範囲内だが、図書館離れが進んだことと、数年前に、近隣自治体に新しい図書館がオープンしたことが原因でないかと考えている。

増加したものでは、豊栄図書館の貸出人数が200人の微増、同じく豊栄図書館のリクエストを含む予約件数が3,028件の増加となっている。

(坂井委員)

松浜図書館は休館したというが、前年度より登録者数が減っているのは有効期限切れによるのか。

(事務局)

松浜図書館休館中に他館で更新すると更新館の登録者となるのが、減っている一つの要因である。また松浜休館中は松浜地区に住んでいても新規登録ができないことも要因。

(坂井委員)

登録者を増やしていくことが課題である。

(白神会長)

期限切れの利用者に再登録を促すために何かしているのか。

(事務局)

来館者には事前に更新の声掛けをしている。来館していない利用者に、更新の案内を郵送するといったことは行っていない。

(伊藤委員)

前から新潟市は更新の案内を来館者にしかしていない。他自治体の実態に合わせて考慮してもよいのでは。予算の関係もあると思うが。また現住所ではなく更新した館の登録なのは驚いた。

(事務局)

登録館が変わるのは統計上の部分だけで、利用者への影響はない。また、登録者の計上方法について新潟市は厳密に行っている。

(白神会長)

去年より北区は919人減っているようだが、松浜図書館休館中に他館で更新したことによる登録者の減少は数%であって、大半は有効期限が切れても更新していないのではないかと。新潟市全体ではどうなのか。

(事務局)

毎年微減。新館ができると増えるが最近はそれが無いため、期限が切れた利用者が新規登録者を上回った分、登録者数が減少している。

「図書館へのたより」や図書館への意見（資料5）

（館長）

平成30年度は豊栄図書館で5件、松浜図書館では0件だった。意見と回答の概要は、資料のとおりだが、二つほど説明を行う。

8月に「開館時間を9時30分にして欲しい」との「図書館へのたより」があった。投稿者は、開館に合わせて、ほぼ毎日、図書館に来館するそうで、10時開館では、普段の自分の生活ペースから考えると遅いとのこと。

厳しい財政状況のおり、開館時間の拡大は費用の増額につながるため難しいことと、図書館としては費用とそれに見合う効果を考慮しながら、限られた予算を有効活用してサービスの向上に努めていくと回答した。

次に、11月に「リクエスト（新潟市以外の図書館からの取り寄せ）を行ったが3日たっても連絡がない」との「図書館へのたより」があった。

これはリクエストされた本が、新潟市の選書基準から外れる可能性のある「資格試験の問題集」の類であったため、中央図書館とも相談しながら検討を行い、普段より時間を要したため。選書基準に合致しなければ、新潟市以外の図書館からの取り寄せも行わないことになっている。結果的には取り寄せが可能であるとの判断となった。

受けるかどうかの検討に時間を要する場合があることと、受ける場合でも、通常、本の準備ができるまで図書館からは連絡を行っていないため、利用者が図書館に問い合わせを行えば、現在の状況を伝えると回答した。

（伊藤委員）

利用者の声は増えているのか減っているのか。一人一人に回答しているのか。他の図書館より数が多いのか聞きたい。限られた予算で運営するならなおさら利用者の声の大事。数が増えていないのであれば、たくさんの利用者の声をいただくために「図書館へのたより」のポストを置く場所を工夫しては。

（事務局）

数は例年とさほど変わらない。豊栄図書館は市全体と比べると利用者の声は少ない方。施設の満足度や地域性により数に違いがあると考えている。ポストは1階カウンター脇に設置している。

（伊藤委員）

良いリアクションもほしい。

（坂井委員）

ポストはどこにあるのか。松浜図書館にもあるのか。

（伊藤委員）

委員を長くやっている人でも、どこにあるのかわからないことがあるようだ。

（事務局）

松浜図書館にも設置している。

（白神会長）

「短時間座っていたところ注意された」という意見はどういうことか。本を手にしていな

かったからなのか。

(事務局)

インターネットを利用するための席に座っていたため、席の移動をお願いしたところ、このような声があった。

(伊藤委員)

「他の方ご利用になりたい場合もあります」などと、ご理解を仰ぐような伝え方をしたらお互い気持ちが良い。

(白神会長)

私も腰が悪く、ちょっと座ったところ、すぐに注意されたことがある。

(伊藤委員)

とにかく伝え方。注意をする理由を言わなくては利用者が納得しない。

(白神会長)

開館当初のことだが、子どもが声を出して職員が声掛けしたところ苦情になった。その人その人の感覚で注意をしてはだめ。子どもが注意されたら可哀そう。職員間で申し合わせをして利用者に接してもらいたい。

(伊藤委員)

良いメッセージが多く入るように期待している。

令和元年度北区図書館事業計画（資料6）

(事務局)

最初に、1 乳児・児童・生徒読書活動の支援事業の項の説明を行う。

①おはなしのじかん、②その他の事業について、図書館ボランティア団体の協力も得ながら開催する。

次に、2 一般向け事業の項の説明を行う。

①朗読会について、前年度同様、中学生以上を対象とし、ボランティアとの連携も考えている。②その他の事業については、「おはなし(ストーリーテリング)ボランティア入門講座」を実施中。他に、文化講座や野菜作り講座を計画している。

次に、3 啓発事業（広報）の項の説明を行う。

テーマ図書の展示は、豊山関関連を中心に進めていく。また、「ティーンズアート部」と題して、イラストを募集し館内に展示している。

最後に、4 その他の項の説明を行う。

詳細は未定だが、本年度もボランティア交流会を開催する。北区の図書館で活動するボランティアの交流の場として、さまざまな意見を聞きたい。

わくわく体験夏まつりは、7月21日（日）開催予定。夏まつりの他にも、ボランティアと共催・協力開催するおはなし会の日程が固まっている。豊栄図書館では「おはなしバスケット」「クリーク・クラック」「豊栄図書館応援団」「おはなしの泉」の4団体の協力を得ている。松浜図書館では、「こんぺいとう」から協力を得ている。

おはなし会のほか、図書の返却ボランティア、本の補修ボランティアが活動を行っている。

(伊藤委員)

春のおたのしみ会に参加した。カルタの担当をしたが、豊栄図書館の地域資料の棚をみて本を展示するなど、図書館につながる活動をして協力できたらよかったと思った。

令和元年度豊栄図書館学校図書館支援センター事業計画（資料7）

(事務局)

最初に、新潟市教育委員会が、第49回「学校図書館賞」を受賞したことについて説明を行う。

これは公益社団法人全国学校図書館協議会が主催するもので、実践の部に応募・推薦された8点の中から、「新潟市子ども読書活動推進計画に基づく学校図書館の整備充実」が選ばれた。

選考理由として、政令指定都市という規模の大きさでありながら、読書活動の推進と学校図書館への支援が着実に成果をあげていること、間接的支援にとどまらず、学校図書館支援センター等による直接的支援を行うなど総合的なもので、全国的に見ても優れているとの高い評価を得た。

基盤整備として挙げている3つの事柄を生かし、各学校で様々に工夫を凝らした取組を展開していただいた成果と考えている。また、本市では学社民の融合として、地域住民からボランティアとして協力を得て、読み聞かせや環境整備等で学校図書館にも貢献してもらっていることも大きな要素と考えている。引き続き、子どもの豊かな読書環境づくりのために、取り組んでいきたい。

次に、今年度の学校図書館支援センターの取組方針について説明を行う。

“「つながる」「広がる」学校図書館”を今年度の取組の重点とし、連携をすることで、より広がりや深みのある学校図書館運営となるよう支援を行う。中でも、教育委員会が進めている“新潟市にふさわしい小中一貫した教育の取組”に繋がるよう学校図書館での小中連携を4支援センター共通の推進事項としている。基本の取組については、昨年度と同様。

最後に、今年度の豊栄図書館学校図書館支援センターの事業計画について説明を行う。

豊栄図書館では、学校図書館訪問を年3回設定し、学校図書館の状況把握と現場に基づく支援を行う。7月9日に行う学校司書実務研修では、昨年度の学校図書館活用推進校からの実践発表や、新聞を活用した資料展示について実習をする予定。例年、学校司書実務研修は年2回実施しているが、今年度は9月に第30回北信越地区学校図書館研究大会が新潟市で行われることから実施回数を1回としている。

また、1月の豊栄図書館学校図書館支援センター運営協議会は、実施回数を昨年度までの2回から1回に変更した。1月に開催することで、当年度の取組に集中して各委員から意見を聞きたいと考えている。

(伊藤委員)

英語が単元に入ってきたりするが、同じ単元で各学校の依頼が重なった場合は、上手に時期をずらしたりなどしているのか。

(事務局)

新学習指導要領についてはまだ開拓段階。教員がどのように授業に落とし込むか検討している。英語に関して小学校中学年では「外国語活動」、小学校高学年では「外国語」という教科ができたが、たとえば絵本についても英語表記の絵本が必要なのか、小学生向けの英和・和英辞典が必要なのかがある。どの程度授業で使うか、学校のニーズを聞き取っている状況。

(坂井委員)

学校図書館賞について実践の部で受賞されたということで、新聞で読んですごいと思った。論文の部で受賞した作品を読むことはできるのか。

(事務局)

論文が掲載されている図書は市立図書館で所蔵している。後ほど書名を伝える。

(白神会長)

前は学校司書によって温度差があるなど思っていたが、最近ほどの司書も子どもたちにいい本を渡したい、いいお話を聞かせたいという思いが感じられる。学校図書館支援センターの連携のおかげだと思っている。

令和元年度北区図書館の予算（資料8）

(館長)

最初に当初予算の説明を行う。

全体が5千475万3千円となっており、前年度比で135万1千円の減額。主な内容としては、資料購入費が97万3千円の減。その他、短期臨時職員賃金が32万3千円の減額。これは、廃止となった南浜地区図書室の臨時職員の賃金分の減額分。

続いて、職員体制の説明を行う。

濁川地区図書室の貸出・返却の完全セルフ化に伴い、平成31年1月7日から、臨時職員は2名から1名体制となっている。このため、今現在の内訳は、正規職員が4名、非常勤嘱託職員が9名、再任用職員が1名、臨時職員が松浜4名と濁川1名の5名、合計19名体制。そのうち司書資格の有資格者は12名。豊栄図書館職員9名の中には、学校図書館支援センターの正規職員1名と、非常勤嘱託職員1名を含んでいる。

(白神会長)

毎年資料購入費が少なくなっているのは残念。

(事務局)

図書館の予算全体が減っているが、他のかかる費用は増えているという実態。資料費を減らさざるを得ない状況。

(伊藤委員)

全体で減っているのはわかる。各区の特色によって増やすなど工夫はしているのか。

(事務局)

中央図書館に集約している。また利用の多い図書館にも比重を重くしている。

(白神会長)

資料費減で影響があるのはやはり新刊か。

(事務局)

一番大きいのは新刊。既刊本の購入にも影響はある。最低限図書館で購入すべき水準は維持したい。より図書館で必要な本を精査して選書している。

(坂井委員)

毎年予算が減っているが前と比べてどのくらい減っているのか。

(事務局)

手元に資料がないため具体的な減少幅は即答できないが、数年前がピークと記憶している。

(本間副会長)

市立図書館のネットワークで本の取り寄せができるため、全館で同じ本を買う必要がないとは思いますが、どのように調整しているのか。利用者としては、購入館によって取り寄せの日数がかかる場合があるので気になる。予約が何番目とかでいつまでも本がこないことがあるが、なぜそうなるのか。

(事務局)

限られた予算の中で、新潟市としてたくさんのタイトル数を買うことも重視している。予約が集中すると提供が遅くなる。ベストセラーの複本購入は以前より抑えている。

(坂井委員)

著名な賞の受賞作は貸出不可としては。

(白神会長)

実際に100人も待つことがあるのか。

(事務局)

小説『火花』は計1,000件を超えた。もっと人口が多い自治体はさらに予約が多いと聞いたことがある。繰り返しになるが、市立図書館としてはたくさんの種類の本を購入したい。豊栄図書館では松浜図書館と調整して購入している。

(伊藤委員)

地域資料も重視している。予算が少なく購入が難しいこともあるだろうが、寄贈が減っているのか。地域資料は輝き続けるので購入してほしい。

(事務局)

地域資料は可能な範囲で購入している。市全体での情報共有もしている。寄贈については寄贈者の厚意によるので、図書館の一存で増やすことは難しい。

図書館ビジョンの評価(資料9)

(事務局)

例年より、図書館の事務事業の自己評価に対して、協議会委員より評価してもらっている。

資料には、新潟市立図書館全館で取り組んでいる共通の評価項目と豊栄図書館・松浜図書館が重点的に取り組んだ事業を記載している。また、平成30年度の評価項目と実施結果・実績の速報値も記載している。

実際の評価は、後日豊栄図書館が自己評価し、今年度第2回の協議会で、協議会委員に評価を依頼する。結果は取りまとめて、参考にするとともに、新潟市立図書館ホームページで自己評価、及び協議会委員の評価ともにホームページで公表する。

(白神会長)

初めての委員にはわかりにくいと思うが、詳しい説明は実際に協議する第2回に行いたい。

第二次新潟市図書館ビジョンについて(資料10)

(館長)

現在の図書館ビジョンの計画期間が今年度で終了するため、次期ビジョンの策定についての説明を行う。

新潟市は、平成17年に近隣12市町村と合併し、平成19年4月に政令指定市となった。その年の10月に、ほんぽーと中央図書館が開館したが、図書館の今後の進むべき方向をしっかりと確認する必要性から、平成22年度から10年間の、目指す図書館像を明らかにする「新潟市立図書館ビジョン」を策定した。

また、平成26年には、前期の取り組みの成果と課題を整理し、平成27年度から平成31年度(令和元年度)の後期に向けた「後期施策・事業計画」を策定した。

今年度に現図書館ビジョンの「後期施策・事業計画」が終了することを受け、令和2年度から令和6年度を計画期間とする、「第二次新潟市立図書館ビジョン」を今年度中に策定したいと考えている。

新潟市には図書館に関する関連施策として、「新潟市総合計画“にいがた未来ビジョン”」、「新潟市教育ビジョン」、「新潟市子ども読書活動推進計画」がある。

「新潟市総合計画“にいがた未来ビジョン”」は、平成27年度から令和4年度までの8年間に、新潟市が目指す都市像の実現に向けた、まちづくりについて示す計画。「新潟市教育ビジョン」と「新潟市子ども読書活動推進計画」の計画期間は同じ。

「第二次新潟市立図書館ビジョン」は、これら関連施策の進捗状況や内容を確認しながら策定していく。

中央図書館に事務局(ワーキンググループ)を設置して、策定したいと考えている。今年の夏には素案を作成し、10月頃にパブリックコメントを実施する予定だが、同じ時期に、全図書館の協議会委員から集まってもらう「合同情報交換会」を開催し、協議会委員の意見を聞きたいと考えている。

8月に行う利用者満足度調査の結果、合同情報交換会での意見、パブリックコメントでの意見、前年度の市政世論調査結果を参考にし、次期ビジョン、及び事業計画を策定していく。来年の2月頃には、「教育委員会定例会」や市議会の「文教経済常任委員会」で報告し、公表を行う予定。

利用者満足度調査は、10年前と同じ調査票を用いて、区を中心図書館で、同じ条件で調査を実施する。これにより、利用者の考えの経年変化を確認し、次期ビジョンの策定に活かしたいと考えている。ただし、亀田図書館、坂井輪図書館は、10年前は中心図書館ではなかったため、今回が初めての調査となる。

「新潟市立図書館ビジョン」は、目指す4つの図書館像と「効率的・効果的な運営」の5つの視点から成り立っている。

まず、一つ目の柱、「ア ネットワークを活かした『課題解決型図書館』」について説明する。

新潟市の図書館は、19の図書館と4つの地区図書室でオンライン業務を継続し、市内の全エリアで配送を行うことで、迅速な資料提供に努めた。このように資料提供のインフラを維持し、市民の読書環境の充実や、レファレンスサービスの提供など、生涯学習拠点の役割を果たした。

施策①として、平成26年度から団体貸出のサービスを拡大し、図書館で利用者を待つだけでなく、市内の様々な場所で本に親しめるような取組を広げた。高齢者向けサービスとして開始した「いきいきBOX」も、団体貸出の拡充の中に取り込み、サービスを継続した。

施策②レファレンスサービスとしては、市民、議員、市役所職員など、様々な人に図書館を使った課題解決支援を行った。

施策③の電子図書館機能としては、貴重な郷土資料をデジタル化して、図書館ホームページで公開するなど、限られた予算の中で実現できるものから取り組んだ。

今後は、オンラインネットワークを維持し、蔵書を、より効率的に活用する工夫のほか、引き続き、様々なサービスを活用してもらえよう、周知に力を入れていきたい。

次に、二つ目の柱、「イ 特色ある地域づくりに寄与する『分権型図書館』」について説明する。

施策①地域資料の体系的な収集と活用については、各図書館が各地域の郷土資料収集に力を入れ、地域に特化したコーナーを設置した。

施策②地域の課題解決支援としては、自治体の刊行物や観光パンフレットなど、一般に流通しない資料も積極的に収集・保存・提供と合わせ、資料活用においても様々な機関とも連携協力をした。

施策③としては、各区で図書館協議会を設置し、地域の実情に即した意見を聞き、年に1回、合同情報交換会を開催することで、他の区との情報交換の場を提供した。

次に、三つ目の柱、「ウ 子どもの読書活動を推進する『学・社・民融合型図書館』」について説明する。

施策①子どもの読書環境の整備としては、ブックスタート、赤ちゃんタイムなどを充実させ、児童サービスを支えるボランティアの養成、支援などに努めた。

施策②としては、子どもが読書に親しむ機会の充実のため、年齢別ブックリストを作成し、児童・生徒が図書館の仕事の体験をする機会を設けるなど、様々な事業を実施した。

施策③としては、学校、保育園、幼稚園、こども園、公民館等と連携するとともに、学校貸出図書搬送事業や団体貸出により、支援を行った。

次に、四つ目の柱、「エ 市民参画と協働を推進する『パートナーシップ型図書館』」について説明する。

施策①は再掲のため省略し、施策②を説明する。

図書館の事業では、ボランティア活動なくしては成り立たないものが多い。この4年

間も、多くのボランティアに支えられてきた。図書館としては、ボランティアとの連携・協力による図書館事業の実施とあわせ、ボランティア講座を開催し、潜在的にボランティア活動を希望している、新たな人材の掘り起こしに努めた。

最後に、「効率的・効果的な運営に向けて」ということで、「ア」から「エ」の4つの視点が設定されていた。

図書館の施設・設備の管理運営を継続し、広報、職員研修の充実に努め、限られた予算の中で効果を出せるよう、工夫を重ねてきた。

そして、この度、整理した課題を、次期ビジョンの素案作成に活かしていきたい。秋の「合同情報交換会」では、ぜひ協議会委員より、意見を聞きたいと考えている。

(白神会長)

今回の第二次図書館ビジョンに、地域資料の収集も盛り込んであってよいと思う。また、豊栄図書館は絵本の読み聞かせ活動が活発。ボランティアとの連携ができています。先ほども話したが、学校図書館活動が活発だと思う。

(本間副会長)

図書館ビジョンの「地域資料の体系的な収集と活用」について。北区には郷土博物館などがあるが、図書館が地域資料を収集するのはよいがテーマに合わせ分類する、展示をするとなるとさまざまな課題が出てくると思う。それについては図書館が責を負うのか。または協働なのか。

(事務局)

図書館が収集するのは冊子体資料。古文書を収集するのは博物館・文書館など役割分担がある。展示など活用については図書館が主体だが、郷土資料館からパネルを借用したりキャプションの助言をもらったり協力を依頼している。

(本間副会長)

地域資料を置くだけならよいが、それを活用となると色々な問題がでてきて、図書館では克服できないことがある。地域資料には地域の課題がたくさんあるので、そんな簡単に一つの課題として背負わなくてもよいのではないかと。慎重に考えた方がいい。

(伊藤委員)

歴史講座に参加した。参加者も多く内容も素晴らしかった。地域資料は大切。地域資料は集めるところから始まる。それを活用して人と人を結ぶために資料がある。

(坂井委員)

今年度は行うのか。

(事務局)

今年度はビュー福島潟と連携して、福島潟をテーマとした文化講座を行う予定。

第三次新潟市子ども読書活動推進計画について (資料11)

(事務局)

まず、この計画の概要について説明する。

国の「子どもの読書活動の推進に関する法律」では、地方公共団体の責務として、すべて

の子どもがあらゆる機会・場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、子どもの読書活動の推進に関する施策の策定及び実施が定められている。

1の策定の趣旨にあるとおり、新潟市ではこれに基づき、平成22年3月に「子ども読書活動推進計画」を策定し、以降5年ごとに計画を策定、現在の第二次計画が今年度で終了することから、令和2年度から令和6年度までの5年間の第三次計画を策定するもの。

現行計画の成果と課題を踏まえながら、新潟市のすべての子どもたちが読書習慣を身につけることを目指して策定していきたい。

2の計画の範囲、3の期間は資料のとおり。

4の策定体制は、市役所内の関係課・機関で組織する庁内推進会議が中心として、有識者会議、パブリックコメントで、図書館協議会の皆様から、意見を聞きながら進めて行く。図書館協議会委員には、パブリックコメント募集の際に、計画案を送付し、意見を聞きたいと考えている。

5のスケジュールは資料のとおり。

(伊藤委員)

パブリックコメントについて便りをもらい、意見を出すことが役割だとわかってよかった。自分はブックスタートボランティアをしている。予算が厳しくこの事業が継続するかわからないという危うさがあるとわかったので、市民としてパブリックコメントで声を届けていきたい。ほかにも危うい事業があると認識してもらいたいと思う。

その他

濁川地区図書室の現状について

(館長)

前年度の第2回図書館協議会で、濁川地区図書室のサービスの変更について説明を行った。

変更の内容は、図書室の完全セルフ化、予約本の貸出・返却を連絡所の窓口で行う、雑誌や新刊の購入は平成30年11月いっぱいに取りやめるということで、今年1月7日から開始した。

そして、この運営方法を今年6月まで続け、その間の利用状況なども勘案し、地域と意見交換を行いながら、今後について検討していくと、説明を行った。

これまで、地域住民と何度か意見交換をしたが、地域でも、地域の歴史や文化に関わる資料の保管や展示場所として、地区図書室の活用を考えてきたため、今の運営形態を12月まで延伸することとした。

この間、さらに地域と意見交換を行い、市の関係課との調整も行い、来年1月からは、地域と図書館の双方にとってプラスとなり、WIN-WINの関係が築けるように、地域と一緒に運営方法を検討していきたいと考えている。

(村中委員)

7月11日に北区長と語る会があるので、その場で地区図書室の存続について区長に強く要望しようと思う。場合によっては住民で署名活動を実施しようという声も出ている。地元の校長先生とも話をしているが、学校とも協働していきたい。濁川は地域資料がないと

ころ。そういった面に光を当て、地区図書室の存在を浮き上がらせていこうと思っている。

全体をとおしての意見・質問

○図書館協議会合同情報交換会について

(小野委員)

今年度もスケジュールに入っているが、前年度のような形式はやめてもらいたい。案内文には研修を兼ねるということは書いていなかった。主役はどちらなのか。情報交換会とあったが冒頭の一部だけ。費用負担はどこからなのかと問いたくなる。

(事務局)

内容は図書館職員向けだと感じた。今回はそういった研修会のようなものではなく、図書館ビジョンについての意見を聞く場となっている。館長会議で今の意見を伝えたい。

○全体をとおして

(有田委員)

初めて協議会に参加した。図書館の運営がこのように事細かく非常に計画的にされているということがわかり勉強になった。

閉 会

(司 会)

これで、令和元年度第1回豊栄図書館協議会を閉会する。